

令和7年度 シラバス

教 科	理科	科 目	化学基礎	学 年	第 1 学年	学 科 類 型	普通科
単位数	2 単位	教科書	化学基礎（東京書籍）				
副教材	化学基礎・化学問題集（愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門）						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。
------	---

キャリア教育の視点	化学が物質を対象とする学問であり、人間生活に重要な役割を果たしていることを理解するとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けます。また、物質について微視的な見方ができるようにし、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて知識を深めます。
-----------	---

		学習計画及び内容		考 査
1 学 期	4月	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分 2節 物質の構成元素	物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化などについて学びます。	中間 考 査
	5月	3節 物質の三態 2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造 2節 電子配置	原子の構造、電子配置と原子の性質との関係を学びます。	
	6月	3節 元素の周期表 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	原子の電子配置と関係が深い3種の化学結合について学びます。	
	7月	2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類 3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質量	原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質を粒子の数で表す「物質量」とその単位molについて学びます。	
2 学 期	8月	3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方	化学変化における物質の量的関係を表す方法などについて学びます。	中間 考 査
	9月	5節 化学反応式の表す量的関係 2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH	酸と塩基の性質や反応について学びます。	
	10月	3節 中和反応と塩 4節 中和滴定 3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元	代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みや利用例について学びます。	
	11月	2節 酸化剤と還元剤 12月		
3 学 期	1月	3節 金属の酸化還元反応		学 年 末 考 査
	2月	4節 酸化還元反応の応用		
	3月	終章 化学が拓く世界		

学習の方法	日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味を持ち、その法則性について考える態度を身に付けましょう。 疑問に思ったことを確かめてみようという態度を身に付けましょう。 学んだことを正確に記録する方法と態度を身に付けましょう。 上記のことを意識して授業を受け、予習・復習を通して学習内容の定着に努めましょう。
-------	---

評価の仕方	下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・観察や実験の技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取組 (2)ノートの記載内容 (3)観察・実験等 (4)教科書・問題集の問題 (5)中間・期末考査
-------	--

備考	
----	--